

■ 常染色体劣性遺伝のパターン

このパターンにあてはまる、犬の遺伝性疾患

- ・PRA（進行性網膜萎縮症）
- ・DM（変性性脊髄萎縮症）
- ・CL（セロイドリポフスチン症）
- ・GM1（ガングリオシドーシス）
- ・MDR-1 遺伝子変異
- ・CEA コリー眼異常
- ・TNS 遺伝性好中球減少症
- ・Li（魚鱗癬）
- ・若年性白内障

このパターンにあてはまる、猫の遺伝性疾患

- ・PRA（進行性網膜萎縮症）
- ・PK-Def（ピルピン酸キナーゼ欠損症）
- ・MPS（ムコ多糖症）
- ・GM2（ガングリオシドーシス）
- ・SMA（脊髄性筋萎縮症）
- ・NPD（ニーマンピック病）

ノーマル

病因遺伝子変異が検出されない場合で、その病気にはならず、またその病気を発症する変異を後代に伝達しません。

キャリア

1つの正常遺伝子と病因遺伝子変異が検出される場合で、通常発症しません。（図1参照）

しかし、繁殖において、他の個体と掛け合わせると発症性の組み合わせの子供ができる可能性があることに留意しなければいけません。

アフェクテッド

2つの病因遺伝子変異が検出される場合で、発症する確率が高い。

症状があらわれている場合は、かかりつけの獣医師による診断をおすすめしています。

図1 遺伝子は父親と母親からそれぞれ受け継いでいたものがペアになっています。
右図のように片方に変異を持っている場合はヘテロ接合となり劣性遺伝の場合ではキャリアと表記しています。



図2

